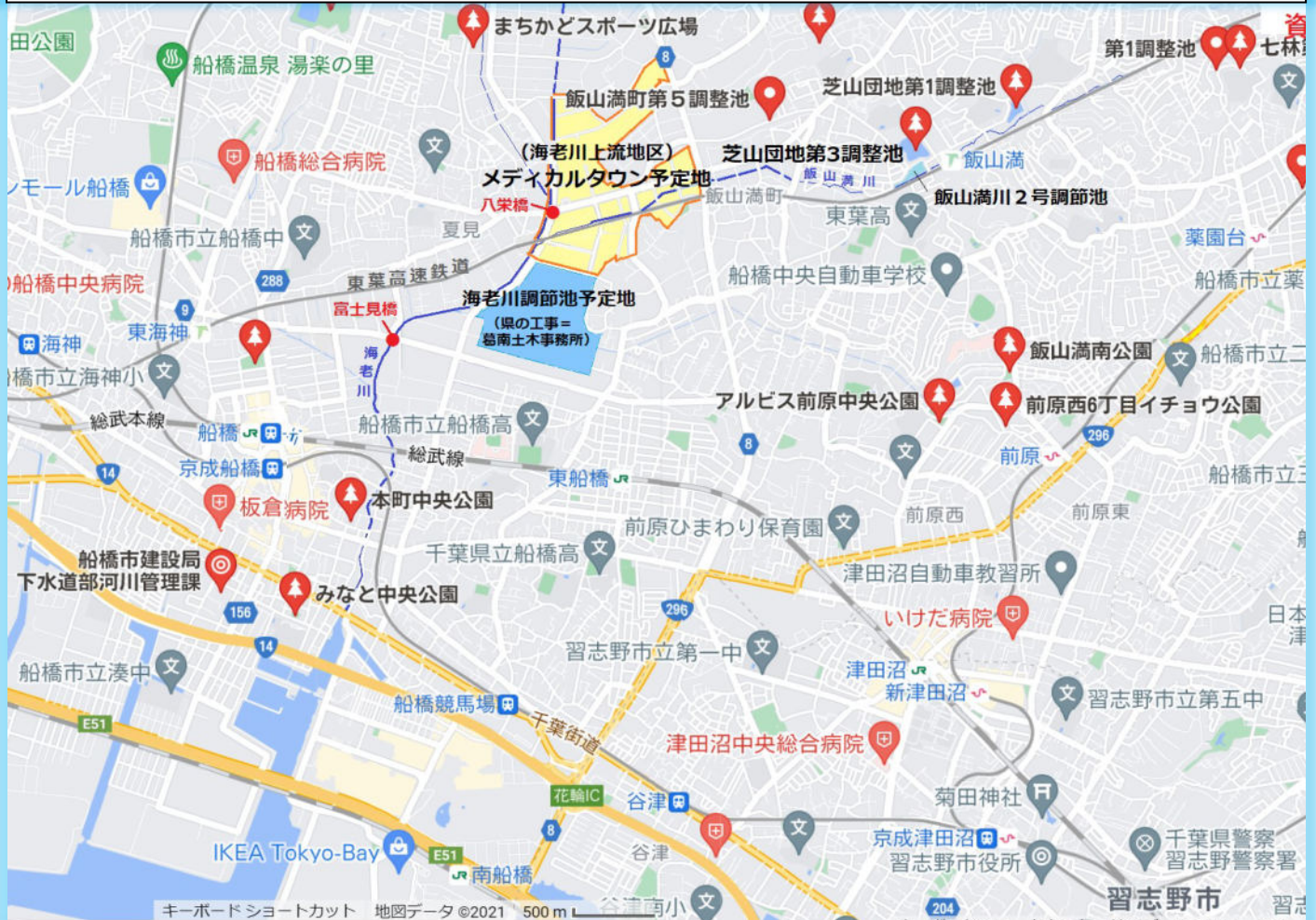


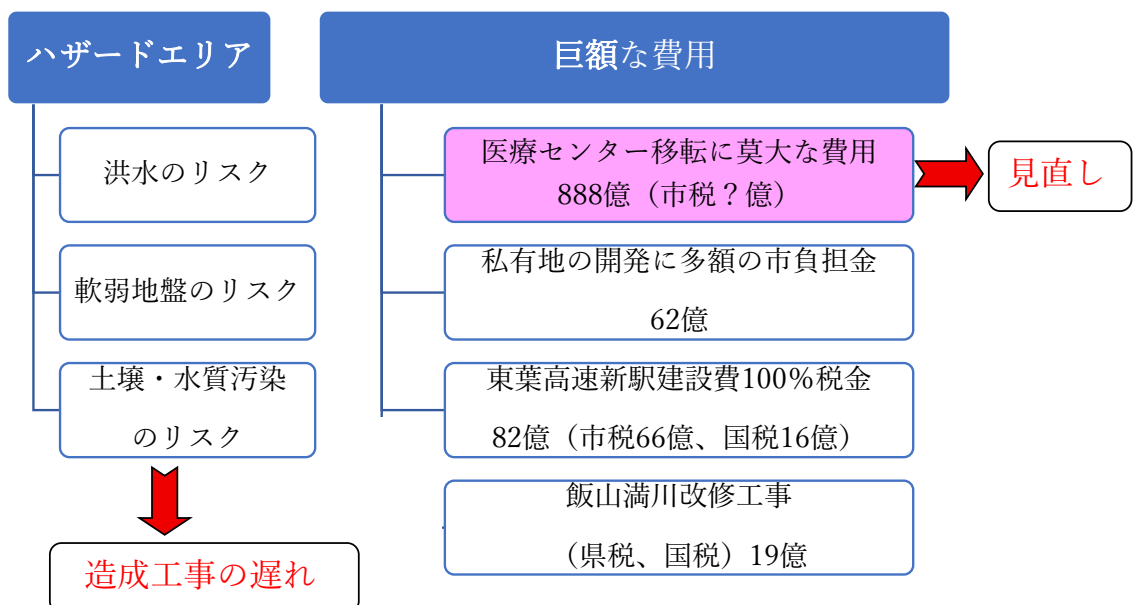
メディカルタウン構想は今どうなっている？

「メディカルタウン構想を考える市民連絡会」「流域治水の会 船橋」共催



●市民連絡会と流域治水の会が問題にしてきたこと

「ハザードエリア」に「巨額な費用」をかけて新しい町をつくること

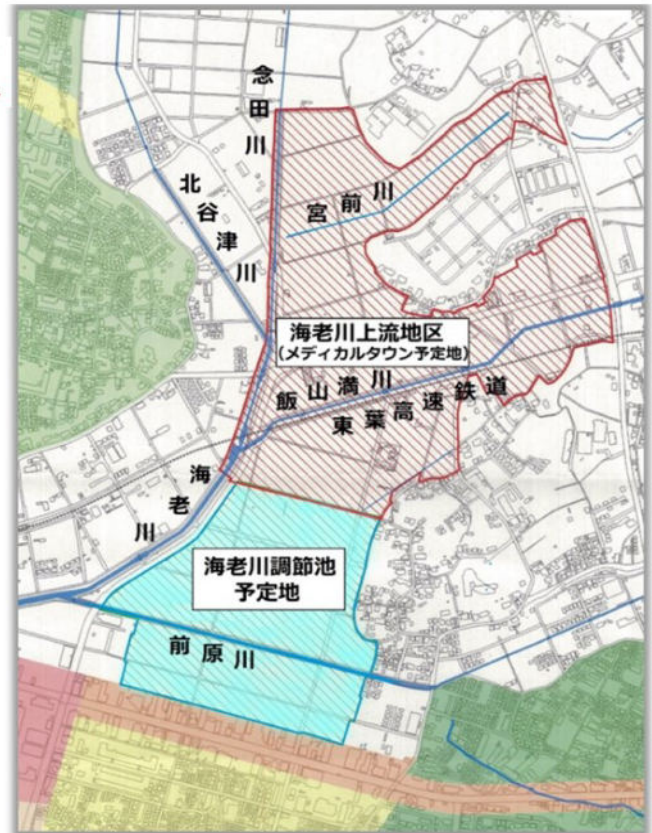


メディカルタウン構想とは

海老川上流の低湿地を埋め立て 新しいまちを造る事業

- 規模 42.3 ha 令和12年完成予定
- ハザードエリア指定地
浸水想定 50cm ~ 3m
- 医療センターを移設
- 東葉高速鉄道に新駅を造る
- 土地区画整理事業（土地の造成）
事業主は地権者による組合
（市の事業ではない）
- 事業費 市負担分1016億円
（利払い込み）

令和7年（2025年）10月現在



2つの事業が合体

私有地の開発

海老川上流地区土地区画整理事業

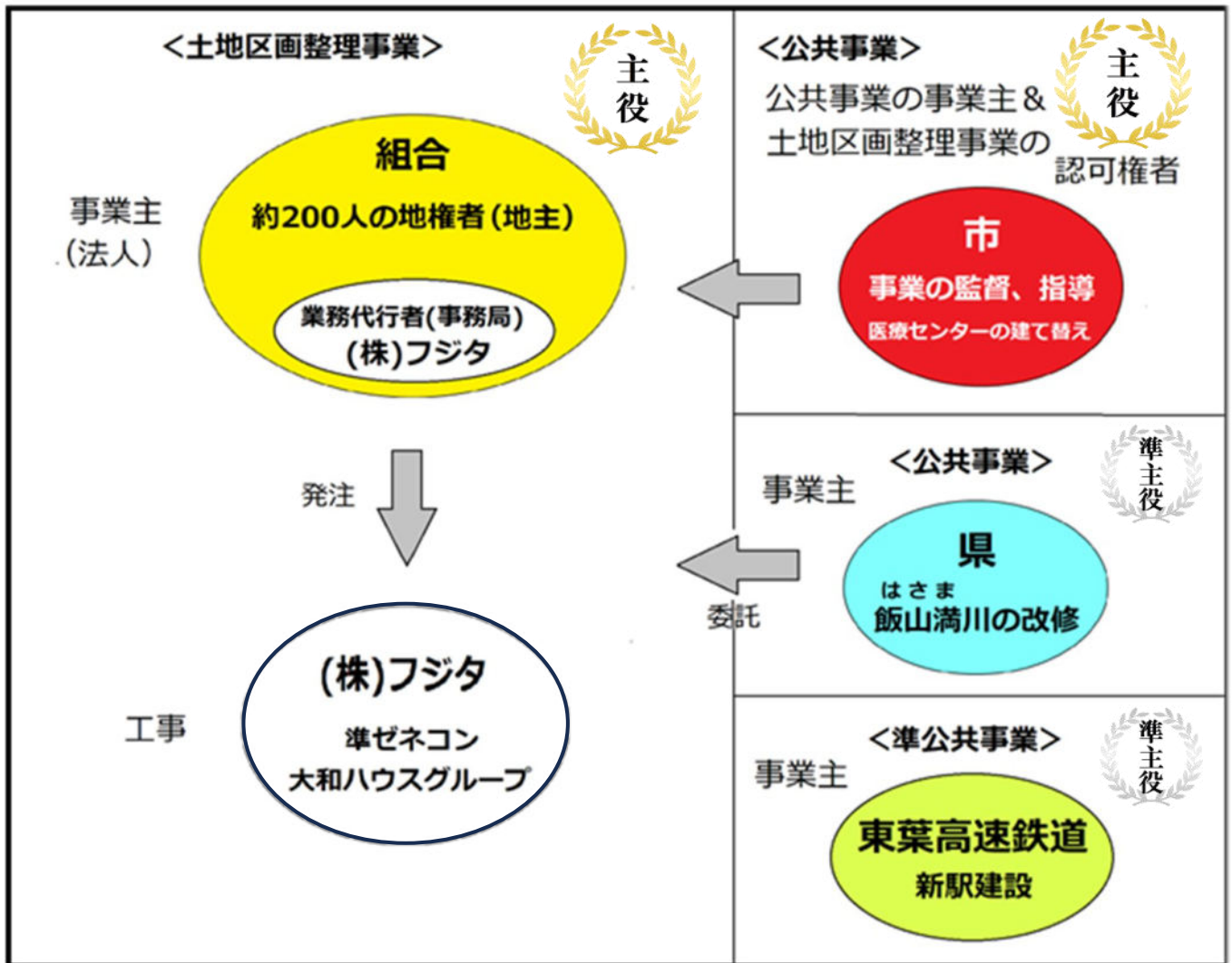


公共事業

医療センター、新駅、飯山満川の工事

駅の建設は東葉高速の事業ですが、税金100%で造られるので、ここでは便宜的に公共事業とさせていただきます。都市計画決定は2022年3月4日

メディカルタウン構想の主な登場人物



◆**ダブル主演／組合**（海老川上流地区という私有地開発の事業主）

船橋市（組合の開発を強力にサポート。その開発の監督者 兼 病院建て替えの事業主）

◆**準主役／千葉県**（飯山満川の管理者。入札をせず、協定というかたちで改修工事を組合に委託）

東葉高速鉄道（松戸徹市長に頼まれて、税金 100% で新駅を建設。長期債務を抱えている）

※この 2 人は、そもそも土地区画整理事業がなければ、このタイミングで工事をする事はなかった人達。

◆**組合事務局／フジタ**。影の主役。なぜなら組合の工事は発注者も受注者もフジタだから。「業務代行一括方式」と呼ばれる事業のやり方で、違法ではないものの一つの会社の中で伝票が動くので、不正がないか、監督者である市は組合をしっかりチェックする必要がある。

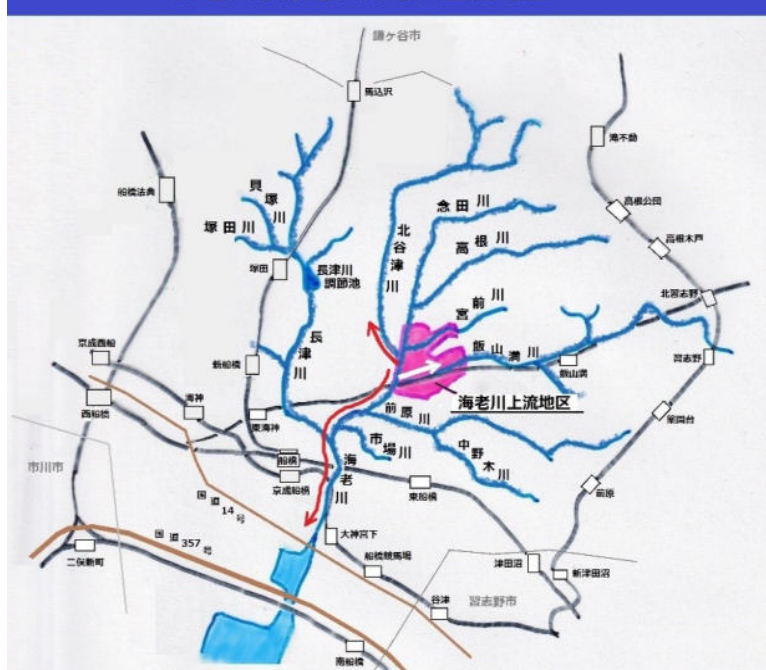
◆**医療センター建て替え業者／未定**。2024 年 9 月に行われる予定だった入札は応札者ゼロで中止になったため。唯一参加する予定だったフジタとティー・エス・ケー（地権者）の共同企業体は直前キャンセル。後日行われたヒアリングでフジタは、「建設費 25% 増しなら」と言ったとか。2025 年 7 月、市長が建て替え計画の見直しを発表したため、当分登場シーンなし。

◆**飯山満川工事受注者／フジタ**。県が組合に業務委託したため、フジタはオーディション（入札）なしでこの役もゲット。

◆**新駅工事受注者／大林組**。2024 年 12 月、一般競争入札を経てメディカルタウンの舞台に登場。

メディカルタウンで海老川水系に洪水の危機

海老川水系と、海老川上流地区



<市は必死になって否定するが…>

1. 海老川の排水能力は 1 時間 30 ミリの雨量を安全に流下させる程度。大豪雨時代の今、そもそも洪水のリスクをはらんでいる。
2. 海老川上流地区は遊水地として長年流域を洪水から守ってきた。この事業はその遊水地を埋め立て、消失させるもの。洪水のリスクが高まる（海老川、飯山満川、北谷津川流域が特に）。
3. 市や県が洪水対策とする事業地内の調整池の容量は、洪水を防ぐには全然足りない。
4. 令和 4 年 8 月に発表された海老川下流域を洪水から守るための県の河川工事は、まだ 10 年ぐらい完成しない。

<過去 = 大洪水時代>

→昭和 59 年の大洪水（海老川下流域）。高度経済成長時代に市街化が進んだ船橋は、昭和 40 年代～平成の初めまで洪水が頻発。河川激甚災害対策特別緊急事業などでやっと収まったが、今再び洪水の危機が訪れている。



写真／葛南土木事務所

<現在>

感潮河川の海老川は、晴れていても満潮時の水位が高い（海老川下流域。令和 4 年 6 月）。

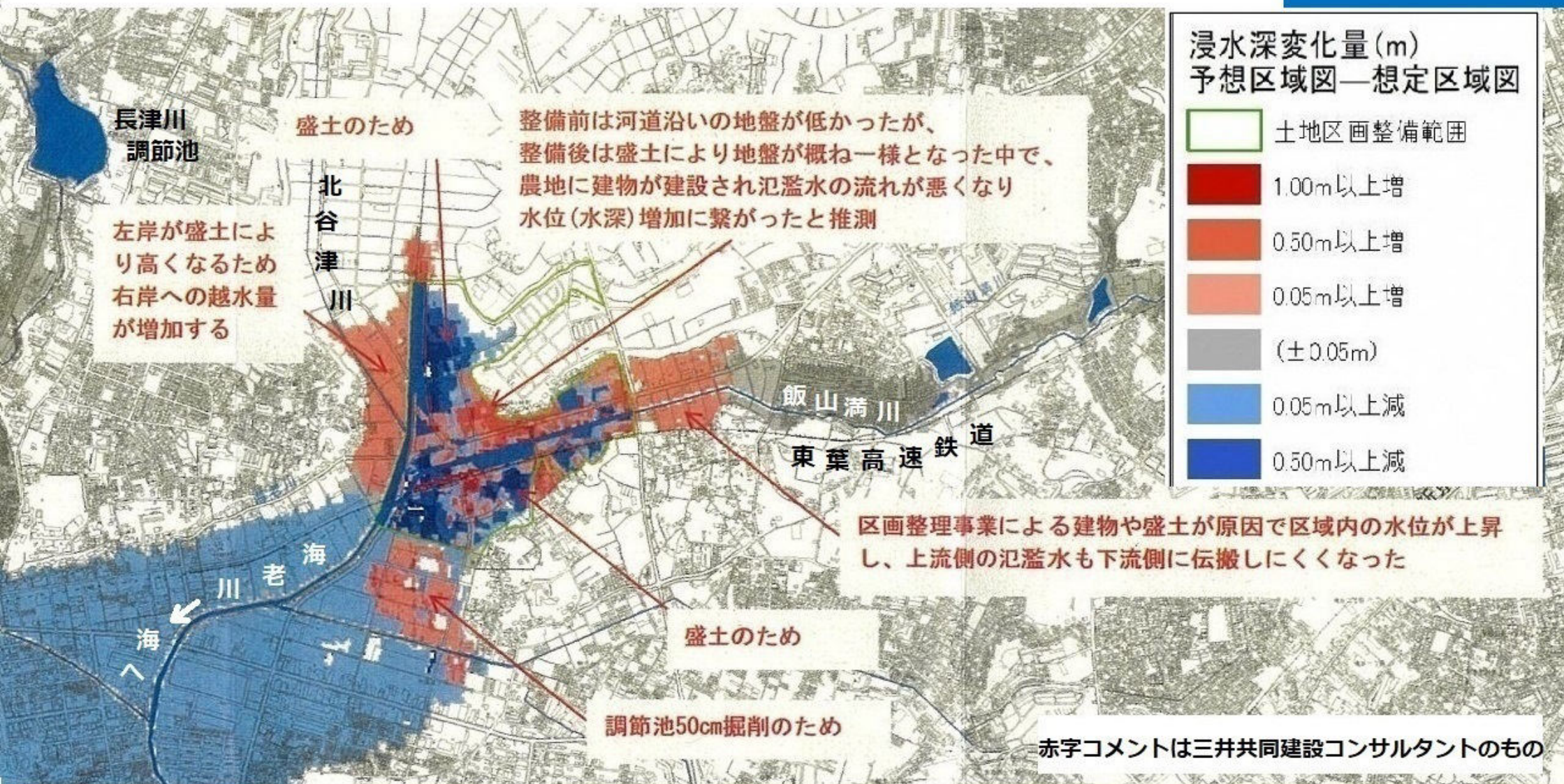


市が行った浸水シミュレーションの結果 (2022年8月発表)

想定最大規模の雨量(9時間516mm)、県の河川工事をした場合の図

問題点①

洪水のリスク



海老川上流地区開発(メディカルタウン)の造成工事による浸水深の増減図(今のハザードマップとの比較)。二級河川のみ増減を示したもので、小河川の氾濫や内水氾濫による増減は図示されていない。また被災がひどくなる人達への説明も補償もしていない

医療センター用地は超軟弱地盤

「大地震の時は、敷地の ほぼ全面が液状化する」

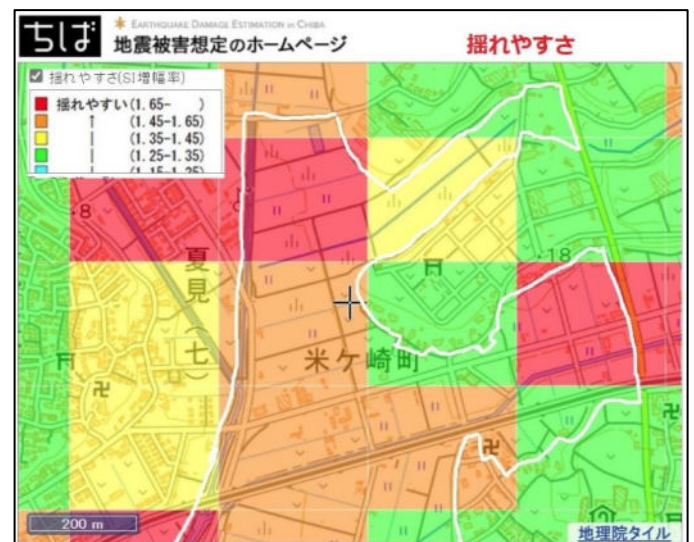
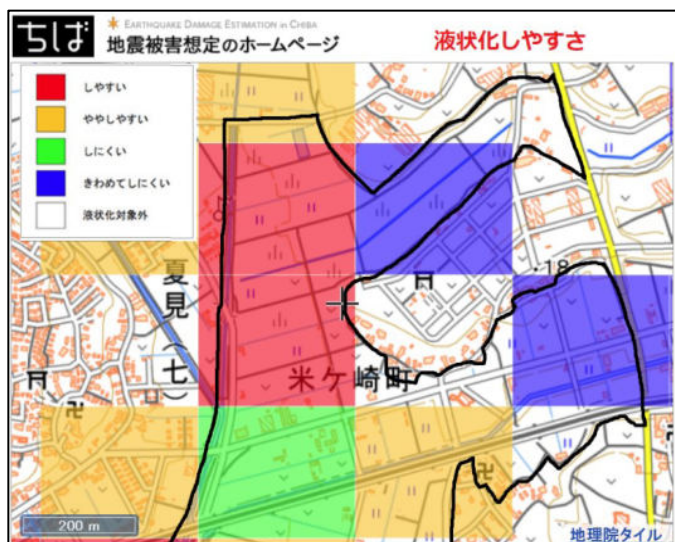
↑ 設計を担当した日建設計が市に報告。
(第7回設計会議資料 2022年7月6日)

→ 右の青い所は震度6強の大地震に対応した液状化対策、グレーの所は中地震対応の液状化対策がなされる。

地盤の固さは最弱を意味する N 値 0。あまりにも軟弱なため、工事車両が病院用地に入るのを見た地主が「重機が沈む！」と心配したとか。



千葉県のパデータが示す、病院用地の危険



図は海老川上流地区全体。病院用地は左上の台形の所。液状化、揺れやすさとも最大なのがわかる。

病院用地以外の海老川上流地区も軟弱地盤。しかし組合は部分的に震度5強対応の液状化対策しかしない（市の議会答弁）。その液状化対策とは「盛り土をする」だけ（新病院建設室に確認）。そのため大地震の時は病院へのアクセス道路やインフラがやられる恐れ。能登半島地震のような状況が予見される。

有識者も船橋を心配

石崎勝義

元建設省災害対策調査室長、元長崎大学教授

遊水地である海老川上流地区を全面盛り土で埋め立てると、洪水のリスクが高まります。計画変更を。

今本博健

京都大学名誉教授、元京都大学防災研究所所長

この事業の雨水対策は破綻しており、事業地内の水害も流域の洪水も防ぐことはできません。

水谷武司

元「防災科学技術研究所」主任研究員、元千葉大学教授

海老川上流地区は超軟弱地盤の低湿地。地震動が増幅されやすいこの土地に基幹病院を造るなど、あり得ないこと。この開発計画は、その基本理念がまず問われねばならない。

嘉田由紀子

参議院議員、元滋賀県知事

海老川上流地区を埋め立てるのは非常に危険です。洪水にならないように対策するのは船橋市と、河川管理者の千葉県の責任です。

東葉高速・新駅建設費 100%税負担はおかしい



Q なんで建設費が 100%税金負担になったの？

松戸徹市長が「建設費は全部税金で払うから、ここに駅を造ってくれ」と頼んだから。

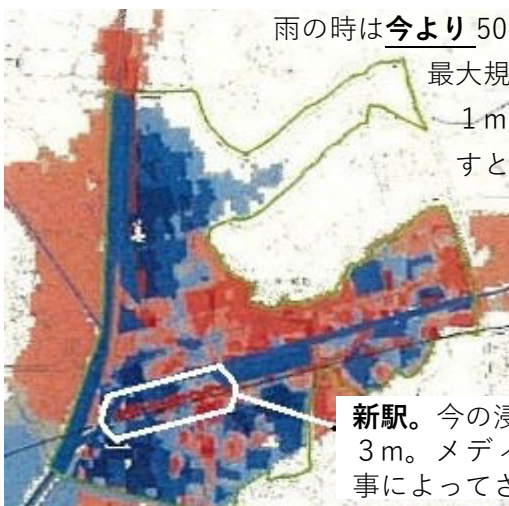
Q 駅ができて一番恩恵を受けるのは誰？

地権者（地主）や開発業者（フジタ）です。駅ができると土地の評価が爆上がりして大変儲かるからです。だから同じ請願駅の船橋日大前駅、村上駅（共に東葉高速）は、受益者が全額負担しています。でもこの事業では地主やフジタは一銭も払いません。建設費は駅の恩恵を最も受ける地主と開発業者に払わせるべきです。

Q 豪雨の時は駅が浸水の危機？

市が行った浸水シミュレーションでは1時間 70 mmの雨の時は今より 50cm 以上、想定

最大規模の雨の時は、1 m 以上浸水深が増すという結果が。



新駅。今の浸水深は50cm～3m。メディカルの造成工事によってさらに浸水深増

Q 東葉高速鉄道が資金ショートという噂は本当？

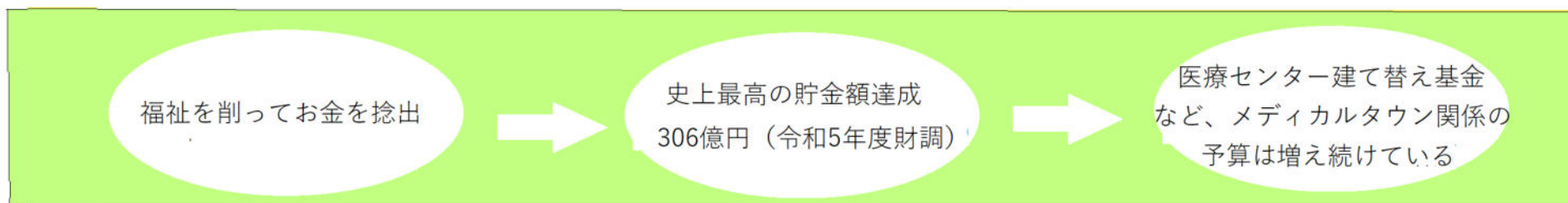
船橋市や八千代市、千葉県などがつくる東葉高速自立支援委員会は、長期債務などの影響で、「令和 18 年に資金ショートの恐れ」と言っています。心配なのは船橋市が駅建設の借金を返し終わらないうちに、駅救済のために新たに資金を投入すること。「本来は国が救済すべき」（説明省きます）と議会で意見されても、市は払わないとは言いません。だから借金の上に借金を重ねる恐れがあります。

削られた福祉と市民サービス

市の錬金術は私たちの生活の質を下げる事だった

公共施設の利用料値上げ 公民館、スポーツ施設、市民文化ホールなど 10億500万	公共施設の駐車場有料化 運動公園 グラスポ 3000万	指定管理者制度の導入 運動公園、グラスポ 一宮少年自然の家など 5800万
母子家庭関係 高等学校等修学援助金廃止 医療扶助金県基準に統一 5312万	学校関係 スポーツ振興センター共済掛金 の一部保護者負担 2462万	保育関係 保育所、認定子ども園の運営費補助基準の見直しなど 1億6374万
高齢者関係 敬老祝い金を88歳と100歳のみに 一人暮らし高齢者入浴料扶助廃止 1億6139万	町会関係 自治会館維持管理費補助金廃止 防犯灯維持管理費補助基準見直し 6126万	下水道使用料の値上げ ※ほか多数。 4億6000万

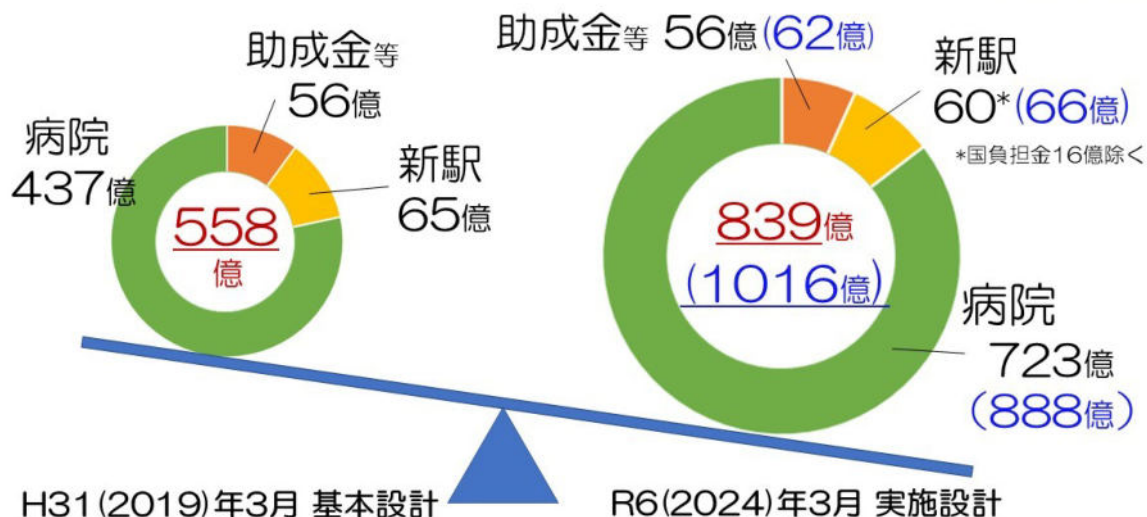
「行財政改革推進プランの進捗状況」などより。金額は令和2、3年の見込み額



上がり続けた建設費

メディカタウン建設に使う市のお金

青字は
利払い込み



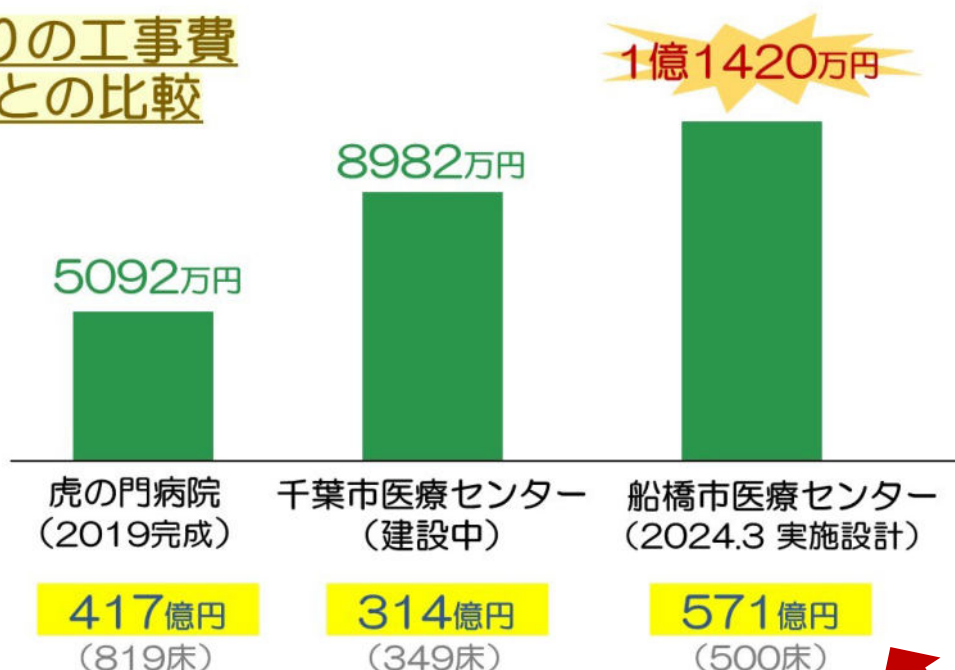
メディカタウン構想の事業費は条件が違う様々な数字が市から断片的に出されているため、色々見ると混乱します。ご覧になるときは数字の条件にご留意ください。

夢のような病院計画を進めた結果…

一床あたりの工事費 他病院との比較

一床あたり
の工事費

工事費総額



1床が1億円超。いかに無理な計画だったかわかります。でも 2024 年9月の工事入札では、この金額でも請けられないといって応札する会社なし。1社のみ「25%アップなら請ける」といったところがありましたが、さすがに公立病院には払えないとして、病院の規模を見直さざるを得なくなったと考えられます。

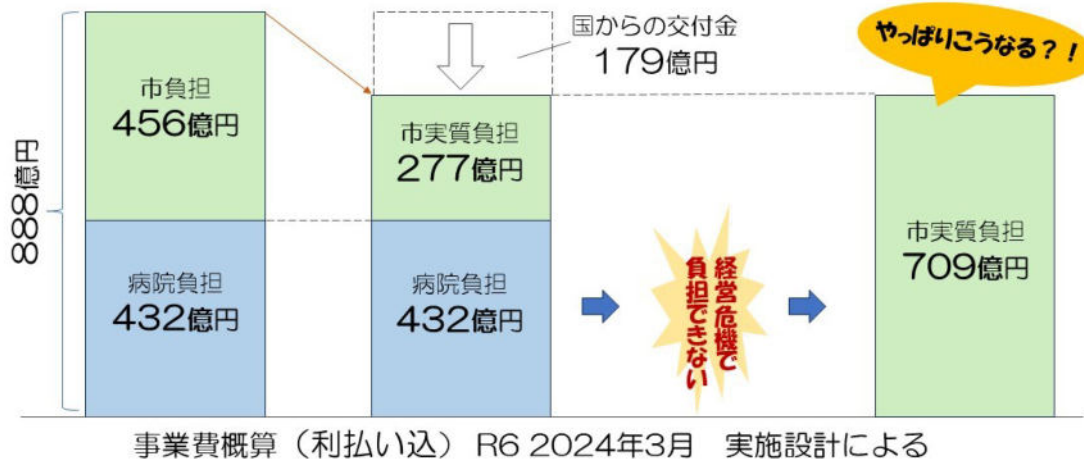
破綻した医療センター建て替え計画

そもそも無理な計画。最後は市民が尻ぬぐい？

破綻した市長の主張

☆事業費は市と病院が半々で払う
☆市民の負担は277億円だけ

注) 市負担とは一般会計からの支払い。
市長の言う「市民負担」



公立病院の返済能力に 過大な期待

公立病院は不採算でも患者を受け入れるため、赤字が宿命。

医療センターは独立採算制だが、毎年市から約 20 億円の補助を受けている。それでも R6 年度は 11 億円の赤字、R7 年度も 13.4 億円の赤字見通し。

全国の自治体病院の経営は同様に厳しく、簡単に黒字転換できるような状況にならない。そもそも巨額な建設費負担は無理。

甘い前提

●診療数、入院数を増やして収入を上げる。そのために医師や看護師などを大幅に増員する計画。ただでさえ医療スタッフの不足が深刻な船橋市で、必要な数が集められる保証はどこにもない。

また医療センターに医療スタッフを囲い込むことについて、千葉県医師連盟船橋支部から地域医療に支障が出るのではと懸念が出されている(2024年3月)。

●低めの金利を想定 (金利は上昇局面)。

●9割近い高い病床稼働率を想定。 など

割高な工事費

●軟弱地盤への移転による液状化対策、巨大免振装置、躯体強化など

●全室個室化、●複雑な病室のレイアウト

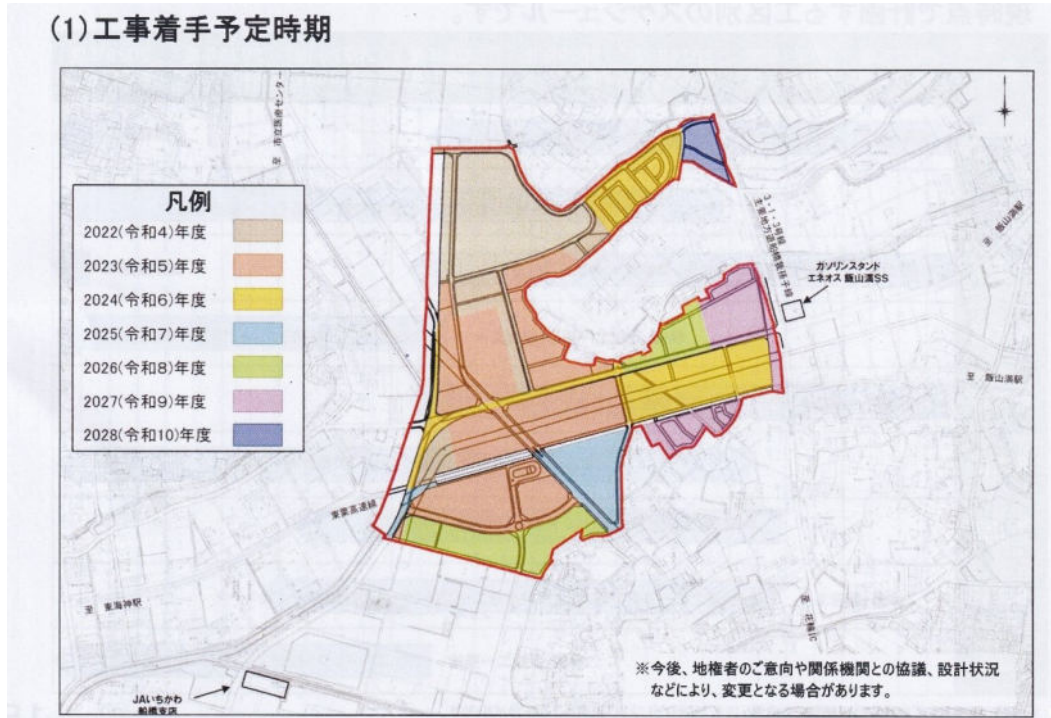
返済できなければ市が払う(議会答弁)。

→ 市民サービスにしわ寄せが?!

お金がないなら、余計なコストをかけるべきではない!

町づくりに赤信号？ 造成工事は遅れている

(1) 工事着手予定時期



2022 年 10 月の
フジタの工事説明
資料より。
工事は 2 年ほど遅
れていると推測。



←「流域治水の会 船橋」と市民技術者たちが
フジタの設計ミスを明らかにしたため、
2024/10 から止まっている病院脇の 1 号調整
池工事（2025/7 撮影）。工事が始まっても市
民の知力を結集すれば、止めることができる
という好例です。



←↑ 地下水が湧いて大きな池を作っている
東葉高速鉄道北側のエリア。ポンプで
汲み上げても、すぐにまた水が溜まって
しまう。上の池（2025/2 撮影）は土を
かぶせて強引に埋め立ててしまった。左
は 2025/7 撮影。地下水が湧く新造成地
は沈下や液状化のリスクありと有識者。
企業が進出しない理由はそこにある？